

2026年度事業計画

1. 公益目的事業

(1) 国際相互理解のための体験活動及び普及啓発事業

■国際理解講座 Global Understanding & 沖縄フィールドワーク

目的 世界の中、とくにアジアの中の日本を知るため、日本の歴史や現状を学び、国際理解を深める。日本の学生、留学生、青年が国内外のプログラムに参加する際の事前学習として位置付け、議論ができる力を育む。学生アルバイト、事務作業、学生の育成に繋げる

対象 学生一般(大学生、大学院生、留学生など)

内容 沖縄フィールドワークへの参加を前提に事前学習を実施。沖縄フィールドワークは沖縄戦の歴史と米軍基地問題について各地を訪れて学ぶ体験型学習で5月ゴールデンウィーク中の3泊4日を予定

期待される効果

【歴史認識の深化と当事者意識の獲得】体験型学習を通じて多角的な視点で歴史と現状の理解を深め、平和に対する感受性と社会課題への当事者意識を向上させる

【異文化理解・他者への想像力を養う】異なる背景を持つ参加者同士や現地の人々との交流を通じ、多様な価値観を受け入れる柔軟性を養う

【リーダーシップとホスピタリティの育成】短期間ではあるが寝食を共にし、日本側参加者は留学生をサポートする立場を経験することで、集団を動かすリーダーシップや、他者への配慮を実践的に学ぶ機会となる

■日中韓大学生リーダーシップ育成キャンプ

目的 異なる文化や価値観を受容し、国際的視野が広がる。参加者の成長、グローバル人材としての向上を図る

対象 現役大学生および大学院生(若手)

日時 8月中旬場所

場所 沖縄(国際情勢の影響により日本国内での実施を検討)

参加者 日本・韓国・中国からそれぞれ最大10名

内容 韓国ハンバツ大学と中国延辺大学の日本語学部の大学生と相互交流を行う。ワークショップや発表会、講演、ホームステイ、ゲストスピーカーとして授業参加等を通じて、

現地の文化的背景や歴史、習慣等への理解を深める。2024 年度から 3 年計画で実施している

期待される効果

1. 異文化受容と相互理解の深化—お互いの国を訪問し、異なる文化や価値観に触れることで、自分自身を振り返りながら他者理解を深める機会となる。こうした体験は多様性の受容を促し、日中韓の相互理解を一層深化させることが期待される
2. リーダーシップの育成—多様な文化背景をもつ仲間との協働体験により、学生の対話力・調整力・問題解決力の向上をはかり多様性受容を醸成する。これらの力は多文化化が進む日本社会の現場で求められる資質であり、国際交流促進に寄与することが期待される
3. 東アジア若者ネットワークによる交流基盤強化—本プログラムで形成された日中韓の若者ネットワークは、国境を越えた交流継続を通じて地域間の相互理解を深める基盤となる。参加者が国内で新たな交流企画を生み出すことで、日本の国際協力や友好関係の強化にもつながる

■福岡フィールドワーク(予定)

目的 歴史を知り、現地を訪れることで、課題やその地で実践していることの状況を学ぶ

対象 社会人、学生

内容 山口フィールドワークに続く企画とする。現地集合・現地解散型のフィールドワーク

(2) 国際相互理解を基調としたボランティア活動推進事業

■日本語ボランティアの会

目的 日本語の学習を必要とする人に日本語学習の支援をするとともに、国際交流を深める

対象 ボランティア講師:奉仕園の講座修了者など

学習者:日本語学習を必要としている 10 歳以上の方どなたでも

内容 日本語を必要としている学習者にボランティア講師が日本語を教える。講師は奉仕園の講座修了生および推薦などで公募予定。課外活動などとは見合わせるが、学習者発表会などの機会を模索する

開講日 対面にて水曜日 2 クラス、金曜日 1 クラスずつ。オンラインクラスも並行実施

期待される効果

日本語学習を必要とする学習者が、継続的な学習支援を通じて日本語運用力を高め、地域社会で安心して生活・参加できる基盤が整うことが期待され、また、ボランティア講師との対

話を通じて相互理解と国際交流が促進され、学習者の自己表現力や自信の向上につながる。
奉仕園を拠点とした人材育成と多文化共生の実践が地域に広がる効果が見込まれる

■野宿者支援給食活動(共催)

目的 野宿者、生活困窮者の方々へ食事や保存食、支援物資を渡すボランティア活動を通して、格差社会や貧困、生存権の問題を身近に感じる

対象 大学生、院生、留学生、社会人ボランティア

内容 約 180 人分の食事、保存食、支援物資を準備、渋谷にて配食活動。ボランティアの弁護士や司法書士による相談会も行う

日時 月 2 回(原則第 2、第 4 日曜日)10 時準備開始～21 時活動終了

共催 日本キリスト教団早稲田教会

協力 NPO 法人セカンドハーベストジャパン、キリスト教学校ほか

期待される効果

【次世代を担う市民の育成と意識変革】貧困や格差の実態を肌身で感じ、社会課題を「自分事」として捉える感性を養うことができる。また、国籍や世代を超えた協働体験は、他者を尊重する奉仕の精神と、将来社会課題の解決に寄与する市民としての資質(シチズンシップ)を高める効果を持つ

(3) 国際相互理解のための語学講座及びその他講座事業

■多文化共生のためのボランティア講座ー地域における日本語学習支援について学びましょう

目的 多文化共生社会は、異なる国や地域にルーツをもつ人たち、異なる言語を使う人たち、異なる背景をもち、異なる問題を抱える人たちが、互いに尊重し合い、対等な関係で生きられる社会にとらえ、地域における日本語教育が多文化共生社会の創生に資するためにボランティアは何ができるのかを模索する。そして、地域日本語教室で活かせるアクティビティを体験し、自分ならではの活動もデザインしていく

対象 社会人、学生

内容 期間 4 月～6 月予定

形式 対面クラス

回数 4 回

講師 福村真紀子(親子サークル「多文化ひろばあいあい」代表、東京外国語大学非常勤講師、博士(日本語教育))

期待される効果

地域における日本語学習支援の意義や実践方法への理解が深まり、多文化共生社会を担うボランティアとしての視点と姿勢が養われる。実践的なアクティビティ体験を通じて、学習者に寄り添った支援力が高まり、各自の経験や関心を生かした主体的な活動デザインにつながる。奉仕園を拠点とした地域日本語教育の質的向上と担い手育成が期待される

■Let' s 朗読

目的 朗読の基本や声の出し方などを学び、元気を養い、普段の生活に張りを与える。詩や物語の世界で感性を磨く

対象 社会人、学生

内容 ストレッチで体をほぐした後、発声練習で発音や発声をクリアにし、作品に取り組み、詩や物語を感じながら朗読する。各期の終わりにはミニ発表会などをする。クラス形式全回対面で行う

期日 前期・後期の2期制各期8回

講師 飯島晶子(朗読家・「VoiceK」主宰)

期待される効果

【豊かな感性の醸成と自己表現能力の向上】文学作品の朗読を通じて、言葉の持つ響きや意味を深く味わうことは、参加者の感性を磨き、情操を豊かにする。また、各期末の発表会に向けて作品を創り上げる過程は、自己表現の喜びと自信を育み、他者に思いを伝える表現力(プレゼンテーション能力)を高める効果を持つ

■パイプオルガン・アカデミー

目的 キリスト教会での奏楽者のスキルアップ、キリスト教音楽への理解の促進、パイプオルガンのレパートリーを増やすなど

対象 礼拝奏楽者、オルガン愛好者など社会人、学生

内容 プロのオルガニストによる個人レッスンと演奏発表会

期間 レッスン日を講師と設定しながら(発表会は隔年に1度)

講師 水野均(桐朋学園大学講師、早稲田教会オルガニスト)

協力 早稲田教会

期待される効果

【礼拝奏楽者の技術向上と教会音楽の質的充実】

受講者が所属する教会に質の高い奏楽奉仕を提供し、礼拝環境の充実に貢献する

【キリスト教音楽文化の継承と理解の深化】実技指導と並行して楽曲の神学的・歴史的背景に触れることで、キリスト教音楽への造詣を深める

【地域における音楽拠点の形成と楽器の有効活用】

教派を超えた奏楽者が集い研鑽を積むことで、奉仕園が地域における「教会音楽のセンター」としての機能を担い、教会間のネットワーク形成にも貢献する

■STUDY HALL！

目的 講演会、映画上映会、料理(レシピ)教室、ワークショップ、フィールドワークなどの単発イベントを束ねる枠組み

対象 社会人、学生

内容 臨機応変に設定できる講座として、共催や持ち込みプログラムを取り込んで講座の幅を広げたい。また、寮に滞在の留学生・研究員を講演者にしたり、セミナーハウスのチャリティー古本市との連携も視野に入れて企画したい。状況を見ながら、オンライン開催にも柔軟に対応する

映画上映会&トークなど

期待される効果

【多様な学びの相乗効果と知見の拡大】

多岐にわたるプログラムを展開することで、参加者にとって予期せぬ学びとの出会いが生まれ、奉仕園ならではの学びの場を提供できる。異なるジャンルの知見が交差することで、参加者の視野を広げ、柔軟な思考力と教養を育む効果が期待される

【多文化共生コミュニティの形成】

寮に滞在する留学生や研究員を講師として登用できれば、講師役にとっては自己表現と地域貢献の機会となり、参加者にとっては生活レベルでの異文化理解が促進され、双方向の信頼関係に基づく多文化共生コミュニティが形成され得る

【状況変化に即応する持続可能な運営モデルの確立】

外部持ち込み企画の受入やチャリティー古本市との連携など、可変性の高い運営手法を採用することで、社会情勢の変化に柔軟に対応できる

■キリスト教講座(共催)

目的 聖書のメッセージの今日的意味を学び、自らの人間形成に役立てる

対象 学生、社会人

内容 キリスト教関係の著作者による読書会を予定

共催 日本クリスチャンアカデミー関東活動センター

期待される効果

【人間形成と現代的教養の深化】

聖書やキリスト教思想に基づく良書を読み解くことを通じ、参加者は現代社会における諸課題を自らの問題として捉え直す視座を獲得する。また、自己の内面と向き合う時間は、変動の激しい社会において主体的に生きるための精神的基盤（人間形成）を強化する効果をもたらす

【多様な価値観を尊重する「対話力」の育成】

読書会を通じた参加者同士の意見交換は、他者の多様な解釈を受容する寛容さと、自らの考えを言語化する表現力を高める。「対話力」の実践的なトレーニングとなる

【パートナーシップによる知の拠点の形成】

「対話」を活動の柱とする日本クリスチャンアカデミーとの共催により、質の高い学びの場を安定的・継続的に提供することが可能となる。この協働は、世代や所属を超えた人々が真摯に人生や社会について語り合える「知のコミュニティ」を地域に創出し、市民社会の知的・精神的土壌を耕すことに寄与する

（４）学寮運営事業（友愛学舎・ゲストハウス）

■友愛学舎

目的 イエス・キリストの奉仕の精神に基づき、広く国際的視野に立って、学生・留学生および社会人に対し、学びと交わりを通しての人間形成の場を提供。充実した学生生活の確立に向けた支援

対象 舎生数：４年生４名、３年生３名、２年生３名に加え新１年生・２年生最大４名募集

内容 朝の会：学期期間中の月曜日から金曜日実施。聖書講読ほか学生発表

舎生会：毎月１回開催、友愛活動・生活について話し合う

年間活動：新入生を含めたオリエンテーションを実施。寮生活の意義、奉仕園や友愛学舎の歴史を学ぶ機会を持つ。入舎式・卒舎式をはじめ、年中行事を楽しむ会などを担当し企画運営をおこないながら自己研鑽をする。教会はじめ外部団体と連携し海外研修やボランティアの機会を増やしていくようにし、広い視野を持って社会に出て行かれるようサポートをしていく。

古賀博牧師、中澤重光宣教師に聖書講読のほか寮運営全般のアドバイザーとして奉仕をいただく

期待される効果

【自己表現力と傾聴力の向上】朝の会での「学生発表」や「舎生会」での議論を通じ、自分の意見を論理的に伝える力と、他者の多様な意見を受け入れる寛容さが育まれる

【企画立案・運営能力の習得】入舎式・卒舎式ほかの企画運営を学生主体で行うことで、プ

プロジェクトを遂行する実践的な能力と責任感が醸成される

【協調性とコミュニティ形成能力の向上】 共同生活や友愛活動を通じ、年齢や背景の異なる他者と協力して合意形成を図る力が身につく

■学生寮懇談会

目的 学生寮の運営担当者が集まり、設備や活動の情報交換を通じて学び合い、寮運営の充実をはかる

対象 日本留学生宿舍財団法人協議会(留団協)に加盟する学生寮、また都内及び近郊のキリスト教主義による超教派の学生寮(現在 10 団体)

内容 懇談会をもちまわりで開き、寮の課題、寮生募集等について話し合う

期待される効果

【運営スキルの向上と知見の拡大】 他団体の事例(ベストプラクティスや失敗談)を学ぶことで、奉仕園だけでは得られない運営ノウハウやトラブル対応力を習得できる。慣習にとらわれず、客観的な視点で自らの運営を見つめ直す機会となり、柔軟な発想や改善意欲が醸成される

【担当者のモチベーション維持】 同じ立場の運営者同士で悩みを共有・相談することで、精神的な負担が軽減され、意欲を持って業務に取り組むことができる(ピアサポート効果)

■ゲストハウス

目的 近郊の大学に在籍する外国人留学生が勉学、研究に励み、安心して寮生活が送れるよう支援する

対象 近郊の大学に在籍する学部、大学院の外国人留学生

内容 1 号館 2 階 201～207 号室計 7 部屋を運営。滞在中に日本文化に触れるプログラムを通して、日本の歴史、習慣、文化を学び相互理解を深める。また奉仕園プログラムへの積極的な参加、協力を促す

期待される効果

【生活基盤の安定と学業研鑽】 異国での生活における不安を軽減し、安全で快適な居住空間を提供することで、勉学や研究に没頭できる環境が整う

【国際相互理解の促進】 交流を通じて、国籍を超えた相互理解が進み、将来的な国際親善の架け橋となる人材が育成される

(5) 早稲田大学との協力による学寮運営事業（国際友愛学舎）

■国際学舎

目的 早稲田大学の外国人留学生、研究員が勉学、研究に励み、安心して寮生活が送れるよう支援する

対象 早稲田大学の外国人交換留学生および外国人研究員

内容 交換留学生は3号館および5号館、研究員は1号館3階301～304号室、4階401～415号室の計152室を運営。滞在中に日本文化に触れるプログラムを通して、日本の歴史、習慣、文化を学び相互理解を深める

退寮 2月上旬及び8月上旬

入寮 3月下旬及び9月下旬入寮オリエンテーションはオンラインで実施

避難訓練実施(4月、9月の入寮時)

Cooking Exchange program 教室(6月、10月)

クリスマスカード送付(12月)

期待される効果 同上

【生活基盤の安定と学業研鑽】異国での生活における不安を軽減し、安全で快適な居住空間を提供することで、勉学や研究に没頭できる環境が整う

【国際相互理解の促進】交流を通じて、国籍を超えた相互理解が進み、将来的な国際親善の架け橋となる人材が育成される

■ウエルカムパーティー&奉仕園クリスマス会

目的 留学生、日本人を含め奉仕園内の寮で生活をする学生の親睦をはかる

対象 早稲田奉仕園寮生

内容 4月及び9月の入寮時に実施。9月はJapanese Nightとして友愛学舎がホストを務める。クリスマス会は12月12日に開催、寮生によるアトラクションや静かなひとときを中心に交流パーティーを実施

期待される効果

新たに来日する留学生が日本での生活に早く馴染めるよう支援するとともに、奉仕園内の寮で暮らす日本人学生との自然な交流を促す効果が期待される。リラックスした雰囲気の中で互いの文化や価値観を共有することで、相互理解が深まり、寮内コミュニティの連帯感が高まる。また、留学生が困りごとを相談しやすい環境づくりにもつながり、その後の生活支援や学修活動にも良い影響をもたらす

■留学生スキー研修

目的 スキー・スノーボードを体験し、留学生と友愛学舎・信愛学舎などの日本人学生と合同で実施するプログラムとし、お互いの交流を深める場となるようにする

対象 留学生、友愛学舎及び近隣学舎の日本人学生、15名程度

内容 スキー・スノーボード体験、温泉体験、交流会など

期間 2026年10月以降

期待される効果

スキー・スノーボードという共同体験を通じて、留学生と友愛学舎・信愛学舎の日本人学生が自然な形で交流を深める機会を提供する。スポーツを介した協力や助け合いは、言語や文化の壁を越えた信頼関係を築きやすくし、相互理解の促進に寄与する。また、寮生活以外での活動を共有することでコミュニティとしての一体感が高まり、今後の学習や生活面での支え合いにもつながることが期待される

■年中行事を楽しむ会 Feel Japan

目的 留学生が日本の文化や風習を体験し、国際理解を促進する。日本の大学生と留学生が交流できる場を提供し、充実した留学生活を送れるようサポートする

対象 国際学舎に居住する留学生および早稲田大学留学生、大学生一般、日本語ボランティアの会学習者

内容 RAと友愛舎生の企画により、お花見や花火、ハロウィンパーティーなど季節行事を実施。その他不定期的にCooking Exchange Programなど日本文化を体験できる行事を実施予定

2027年1月餅つき(早稲田教会と合同)

期待される効果

留学生が日本の年中行事や食文化、生活習慣を実体験することで、日本文化への理解と親近感を高めるとともに、異文化理解を深める機会となる。交流を通じて相互理解と信頼関係が育まれ、孤立の防止や安心して生活できる環境づくりにつながる。結果として、留学生生活の満足度向上と地域に根ざした国際交流の促進が期待される

2. 収益事業

(1) 駐車場及び貸事務所等の賃貸並びに管理受託事業

■不動産賃貸事業

目的 収益事業として財団運営を財政的に支える。施設の利用提供による早稲田教会及び東京平和教会の教会活動の支援

対象 一般、法人

内容 月極駐車場:計 40 区画

建物:礼拝堂・貸事務所

■早大染谷会館管理

内容 (収益事業 1 扱い:施設管理の受託)

早稲田大学染谷国際会館の施設管理及び入居者の各種対応をおこなう

期待される効果

【生活基盤の安定】大学国際課との連携により、安全で快適な生活を送ることができるようにサポートをする

(2) 会議施設及びホール施設の貸与事業(セミナーハウス)

■セミナーハウス施設の貸与

目的 当財団の収益部門を担い、財団の運営を円滑にするため一定の収益を確保する目的がある。歴史的建造物のスコットホールの動態保存、利用者の文化活動、施設修繕等を通じて奉仕園の認知および利用の拡大を目指す

対象 一般、法人、学生、非営利組織等

内容 会議室・ホールの貸出:コンサート、語学教室、句会、朗読、文芸、詩、文化芸活動
撮影(スチール・動画)の受入 ファッション誌、ファッションカタログ、広告、ドラマ、CM、ミュージックビデオ、再現VTR

ギャラリー:絵画、写真、その他アートの展示貸出

期待される効果

早稲田奉仕園の収益部門として財政部分を支える働きをする。質的には撮影の受入を通してスコットホールの認知度の向上を図る。話題になる撮影があると、スコットホール自主イベ

ントの集客が上がり、認知度が高まる

■セミナーハウスプログラム

目的 スコットホール存在感をより多くの方に知っていただく機会を増やし、気軽に参加できるイベント、自主事業を幅広く展開する。開放的であり、誰もが文化や芸術に親しむことのできるスコットホールを目指す(歴史や文化を知る)

対象 一般

内容 ①スコットホール公開日(年2回、5月・10月)

②スコットホール写真講座…写真家・北田英治氏による建築写真講座

③早稲田スコットホールギャラリーにて年数回の企画展示

④スコットホールイベント…建築専門家や奉仕園の歴史を知る方によるイベント

期待される効果

年間を通じてスコットホールを公開する機会を増やし、ヴォーリズ建築・歴史的建造物としてのスコットホールを味わう機会を設け、奉仕園のことを知らない客層へアプローチする。内的な奉仕園ではなく、外に向けた奉仕園をアピールするものとして位置付ける

3. 事業部共通業務

■業務管理システム更新

FM(ファイルメーカー)やFlywireなどを使って利用する側の利便性・事務効率の向上をはかっていく

■広告・宣伝

フェイスブック、ツイッター、ブログ等多彩なメディアの導入を進め、早稲田奉仕園の情報発信力を高める。また、メルマガなどを通じた情報発信や共有の取り組みを検討する。

■広報

財団の事業報告として、7月に年次報告書を発行する。奉仕園通信は主に奉仕園OB OG等関係者向けとして年1回発行する。

4. スコットホール大規模修繕・募金

■募金

期間 2025 年 7 月より 2028 年 6 月までの 3 年間

目標額 3000 万円（2026 年 2 月 1 日現在 6,489,000 円）

5. 法人総務

■財団会議

理事会：第 1 回定時理事会(6 月)、第 2 回定時理事会(3 月)

評議員会：定時評議員会(6 月)

常任理事会：数回開催

評議員・理事・監事懇談会：11 月開催を予定

このほか必要に応じ、臨時理事会、臨時評議員会を開催する

■監査

監事監査(5 月、11 月)及び公認会計士監査(5 月、3 月)、公認会計士実査(4 月)

■早稲田正午礼拝

近隣教会、団体有志による礼拝、原則として毎月第 1 水曜日に実施する

6. 資金調達及び設備投資

■資金調達

借り入れの予定なし

■設備投資

3 号館国際友愛学舎給水ポンプオーバーホール 200 万円

3 号館国際友愛学舎火災報知器設備更新 900 万円

3 号館国際友愛学舎キッチンエアコン交換 3 台 90 万円

1 号館・3 号館国際友愛学舎キッチン IH 交換 7 台 105 万円